

学生図書委員だより

発行・二〇〇九年四月

編集・学生図書委員



No.4

足跡塾 第四回

あさのあつこの巻

『バッテリー』や『The MANZAI』で、繊細かつ強靱な少年の魂を描いたあさのあつこの氏。彼女に似ている作家といえば、後藤竜二！ あさの作品が好きなら、後藤竜二をぜひ。北海道の大自然を舞台にした『天使で大地はいっぱいだ』が名作中の名作なのですが、手に取りにくいんですよ。でも、最近やっと『十二歳達の伝説』シリーズが文庫化し始めたので、そちらから入ってもOK。上手く行かない現実に翻弄されながらも、決して己のプライドを裏切らない子ども達の姿が、読んでいてひりひりすること請け合いです。

さて、あさのあつこの関連で読む作家というと、森絵都や佐藤多佳子らの児童文学出身作家に行きそうですが、意外な方向で金城一紀へ進むのはどうでしょう？ 割とあさの氏と通じるところがある気がするんですが…え？ そんなことない？ でももしあなたが『GO』を読んでいないなら、絶対損してます。とにかく騙されたと思って、「一読ください」。

大学生はフットワークが命！
たくさん動いて、たくさん経験を積んで、そしてたくさん本を読むチャンスです。読まず嫌いはもつたない。大学生の今こそ新しい本を手取るチャンスかもしれませんよ。

今回は新学期ということ、大学生が主人公の本をご紹介します。『空飛ぶ馬』から始まる円紫さんと私シリーズ。文学部在籍の主人公が、日常の些細な謎を落語家であり名探偵でもある円紫さんと解き明かしていきます。柔らかい文章で人間の機微を綴

大つかみ出版社マップ角川書店

昨年六十周年を迎えた角川文庫は、月ごとに人気作家を「編集長」にするという、今までありそうでなかった名企画を実施中。また、角川文庫のイメージ俳優に松山ケンイチが抜擢され、現在は角川の文庫帯には大量の松ケンが(笑)。これらは角川のホームページにいけば詳しく分かるので、興味がある方はウェブへ行ってみてください。

最近ではメディアの原作を多く刊行したり、寺山修司フェアを刊行したりと、何かとやる気が見える角川書店。特に新人発掘に力を入れているようで、ライトノベルを一般文庫に移したり、新鋭作家の特集を組んだりと努力がめざましい。これからも独自の路線で、有望な新人を紹介してもらいたいものです。

今月の一首

フランスパンほほばりながら愛猫と

憲法第九条論じあふ

荻原 裕幸

世間の声も届かぬここで、フランスパンを着に、わたし達で決めちゃいますか。



特集 *** 春爛漫 大学生が主人公

つた名シリーズです。ミステリーには他にも森博嗣の S & M シリーズや、加納朋子の 駒子 シリーズなど、大学生が主人公のシリーズものが多いようなので、要チェック。

最近では、大学生モノという『砂漠』(伊坂幸太郎)や『風が強く吹いている』(三浦しをん)が有名でしょう。一昔前は大学生が主人公のベストセラーが結構あったんですけど、『僕って何』(三田誠広)とか、『赤頭巾ちゃん気をつけて』(庄司薫)と

か、あと『ノルウェイの森』(村上春樹)も 最近は大学生モノの話題作ってあんまり聞きませんね。

『青が散る』(宮本輝)なんかは、現代の大学生にもおすすめです。好きな女の子がいながらも、大学生生活をテニスに捧げる主人公の青くさいほどの青春が、瑞々しい筆致で描かれています。

社会と学生の狭間で揺れながらも、大学生生活は人生で自由な時期のひとつ。春爛漫の今、読書で自分と違う大学生生活を覗いてみてはどうでしょう？